三鷹市立大沢台小学校　令和8年度 【社会】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第3学年		〈学習状況の現状と課題〉 ・自分たちの住む町の様子について、航空地図を見せたり、実際に行き調べ学習を行ったりすることで、興味をもって意欲的に学習に臨んでいた。 ・学習のまとめで、自分の興味をもったことについて、詳しく調べたり、観察の視点に沿って意見を交流したりして学習を深めた。 ・新聞や地図に学習のまとめをすることで、まとめ方について学習することができた。 ・地図やグラフからの情報の読み取りの力については個人差があった。 ・表やグラフから情報の読み取りはできているが、分かったことから発展的に思考することは難しかった。	**〈指導方法の課題〉** ・生活科の町探検や総合的な学習の時間の体験学習等を通して、地域に対する理解は深まっているが、地図や資料からの読み取りの練習をする時間を十分に確保できなかった。 ・学習で分かったことを自分たちの言葉でまとめさせたり、深めたりする時間を十分に確保できなかった。 **〈授業改善策〉** ・八方位や地図記号を読み取る力を付けるために、学習内容と関連付けて地図帳を活用する時間を多くもつ。 ・表やグラフ等資料をじっくり読み込む時間を確保し、分かったことを交流していく。 ・まとめの時間を十分に確保し、交流させることで学級全体でまとめの書き方について深めていく。
第4学年	**〈成果〉** ・学習の内容を見通しをもたせられるように学習計画表を活用することで、児童自身が先を見通して活動に取り組む姿が見られた。 ・学習の最後にはパフォーマンス課題を提示し、紙ベースやタブレット端末を活用するなど児童に選択場面を設定したことでやりやすい方法でまとめる姿が見られた。 **〈課題〉** ・学習計画を自ら立て、実行する力はまだまだ乏しいと感じられるため、継続した取り組みが必要であると思う。 ・授業を通して獲得した知識や技能を活用して、さまざまな場面を想定して表現する力に課題を感じられる。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・一時間ごとに授業を計画し、実行するのではなく、単元と全体を見通して授業のデザインを行っている。廊下の掲示板などを活用することで普段の生活から目に触れられる機会を増やし、社会の内容が自然と生活に溶け込めるように工夫を行っている。 ・インターネットの情報をQRコードで示すことで児童自らが情報を取りに行くことができている。そのため、教師に情報を与えられずに取り組むことができている。 ・水道やごみなどの身近な学習には興味をもって取り組むことができた。	**〈指導方法の課題〉** ・表やグラフ、写真、イラストなどの資料の読み方や結び付け方に個人差がある。 ・自分の考えと友達の考えを比べる時間を十分に確保できていない。 **〈授業改善策〉** ・一時間ごとに計画した授業内容の知識や技能を伝授するのではなく、児童自らが資料を活用しながら情報を読み取ったり比較したりできるように学習環境の整備を行う。 ・資料を基に得た知識や技能を活用して、パフォーマンス課題を児童に提示する。そうすることで、何を学び、何に活用するのか児童にとって必要感のある学びになるようする。 ・自分の考えをまとめる時間を単元の中に位置付け、学習内容と自分たちの生活とのつながりについて、友達と交流しながら考えを深めていけるようにする。
第5学年	＜成果＞ ・じっくり調べたり資料を読み取ったりする時間を確保することで、ノートを整理する力が高まった。 ・ICT機器を用いて資料提示をすると、課題に対して前向きに取り組めた。 ＜課題＞ ・資料の正しい読み取りには個人差が大きく、情報量の多さに苦しむ児童もいた。見る範囲を指定すると前向きに取り組めたが、主体的というのは難しい。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・教科書や地図帳などでは、必要な資料を自分で選択し、読み取ることに課題がある。 ・グラフの数値の読み取りはできるが、そこから何が分かるのかというところまでは考えることができない児童がいる。 ・学習用タブレット端末を活用すると、意欲的に調べ学習を行うことができている。 ・教科書の情報より、インターネットの情報を重視する傾向がある。 ・インターネットの資料を探すことはできるが、自分が必要なことを選び、自分の言葉でまとめることは課題がある。	**〈指導方法の課題〉** ・教科書に出てくる表やグラフなどの資料の読み取り方を全体で確認する必要がある。 ・自分の考えをまとめる場面や時間を確保する必要がある ・課題に対しての必要な資料の選び方について指導する必要がある。 ・学習課題を児童にとって身近なものにしていく必要がある。 **〈授業改善策〉** ・様々な資料を読み取る機会を多く設定し、資料の具体的な読み取り方を繰り返し指導する。 ・教科書を基に、課題と結び付けて要点を整理する時間を設ける。 ・自分の調べたい課題を明確にさせ、どのような資料が必要なのか考えてから調べるよう指導する。 ・学習課題を身近な場面から設定したり、まとめの際に身近な場面と結び付けられるよう提示したりすることで、主体的に考えられるようにする。 ・適宜動画を活用し、理解度を深める。
第6学年	〈成果〉 ・資料を基に読み取る力や考える力が育ってきている。 ・課題に対し、考察を立て、資料を基に分かったことをノートにまとめるとともに、友達の意見にも耳を傾け、理解を広げ、深めることができた。 ・学習したことを各々が工夫してノートにまとめることができる。 〈課題〉 ・知識や興味の多寡により資料の読み取りの深さが変わるので、資料を関連付けながら読み取る力を伸ばす必要がある。 ・興味・関心はあるが知識の習得につながらない児童がいる。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・教科書と資料集の資料を比較したり、必要に応じて資料を選んだりする習慣は付いてきている。 ・表やグラフから事実を見つけることができるが、そこから自分の考えを構築していくことは難しい。 ・学習内容に対して自分の考えを付け加えたり、授業内容を工夫をしてノートにまとめたりする児童が増えてきたが、個人差がある。 ・政治、歴史学習共に、学習内容に興味のあるなしで学習への意欲も大きく違ってくる。 ・本やインターネットで調べたことをそのままスライドにまとめる児童がいる。発表でも意味が分からなかったり、漢字が読めなかったりすることもあるので、ノートやスライドなどのまとめかたを身に付けさせる。	**〈指導方法の課題〉** ・自分に関係のあることとして意識しにくい学習内容が多いので、なるべく身近なものになるように教材を示していく必要がある。 ・自分事として考え、学習課題を設定することができるようにその機会を多く設定する必要がある。また、課題に対し、個人やグループなどの学習形態やまとめる方法など工夫ができるような設定の仕方を工夫する。 **〈授業改善策〉** ・資料の読み取りが苦手な児童には、ある程度資料を指定して資料に慣れさせ、理解ができるように指導する。 ・1時間ごと、単元ごとに大きな流れとしてとらえら、授業もめあてを明確にし、板書を工夫する。 ◎「なぜ、どうして、こうなっているのか」、「自分たちの生活とのつながりは何か」等の発問をして、身近な事象とのつながりに気付かせ、児童なりの考えや理由を述べる機会を適宜設定する。 ・調べたことについてどの言葉や、内容が必要かを考え、自分たちの分かる言葉でまとめるように指導する。